

月刊

書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No 28～

平成27年  3月号  毎月10日発行

一般社団法人日本書字文化協会

代表理事・会長 大平恵理

〒164-0001 東京都中野区中野 2-13-26 第一岡ビル 3階

電話 03-6304-8212 FAX 03-6304-8213

ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

会員募集中

目次

- 指導者ライセンス（資格）試験本部実施を定例化・・・2
- 硬筆文字テキストの決定版続刊 「ドラえもん」も・・・4、5
- 年長園児に毛筆指導 東京・府中「北山幼稚園」・・・6
- 書写11年の思い・井上俊樹君 受賞者代表謝辞（予定稿）・・・8
- 年賀はがき、書初め優秀作品展 中野ZEROホール・・・12
- 会員募集 5月9日に会員総会・・・15
- 東西南北・・・16

コラム

「こころ」（大平恵理） 「きのう 今日 あす」（渡邊啓子・副会長）

「教学半」（池田圭子・教学参与）

▲ 資料編（ホームページの月刊書字文化ウェブ版のみにあります）

指導者ライセンス(資格)試験 本部会場実施を定例化

3/1 学校教育部門昇格認定試験

ライセンス取得のための試験が3月1日午前、東京・中野の書文協本部教室で行われました。(写真)各地の認定会場以外にも今後、本部教室での試験を定例化し、ライセンス制度強化に乗り出すことになりました。該当者は奮って受験してください。

27年の本部会場試験実施予定(いずれも日曜日)

◆学校教育部門 3/1 8/30 ◆生涯学習部門 5/31 11/29

書文協の学びの中心は、検定とその成績に基づく段級やライセンの授与制度です。検定は硬筆楷書から毛筆草書まで12コースあります。現在、楷書と行書を一本化する新硬筆検定を創設するなど検定改革を進めていますが、今後もより良い制度にするための改善を加えていきます。

書の学びは、息の長い「継続」が求められますが、誰でも必ず字が上手に書けるようになり、同時に「継続する力」が間違いなく身についてきます。この力は、あらゆる分野において求められるポテンシャルティ(潜在能力)として、AO入試など自己推薦入試が増加するとともに注目度が高まっています。



指導者ライセンス10段階表

ライセンスは検定コースごとに設けられ、各コースとも10段階(別表)です。検定120課題の何番課題までなら人に教える力がある、ことを書文協が保証するものです。書文協の公共性、権威ある審査団(中央審査委員会)によってその社会的信用性が支えられています。

新級 初級 中級 上級 秀級 教師初段 同2段 同3段 同4段 同5段



6度目のサクラ、芽吹く

日頃、振り返って「ついこの間」と思うことがよくあります。ついこの間成人式を迎えた、ついこの間子供が生まれたばかり。成人式を「ついこの間」と言うのは、ずいぶんとずうずうしいことですが、この30年近くの間、ずっとそう思いながら過ごしてきたのも本当です。当時のお友達に会うと、すぐにそのころの私に戻ってしまいます。

ところで、私たちが中野で活動するようになってからは、5年経ちました。でも、不思議なことに何十年も経過したように感じるのです。30年を「ついこの間」と感じる自分。一方で5年間を何十年もの時に感じる自分。全く違う時間だけれど、感じているのはどちらも同じ自分です。全く違う時間の経過を追う自分をつなぎ、貫いてきたものは何だったのだろうか、と考えるようになりました。

中野の5年は、実に中身の濃い、豊かな5年間だったように思います。大変な苦しみもありましたが、半世紀の生涯の中で過ごしたことがない時間でした。その時間を生み出したのは、皆のためになる「書写書道」であり、「切磋琢磨し、互いが高め合う」ことを実現したいという夢だったと思います。そして何よりもたくさんの人に支えられ、たくさんの人に許され、たくさんの人に力をもらいました。思考を広げ、新たな出会いがあり、新たな経験を今もしています。

「皆のための書写書道」「切磋琢磨、互いの高め合い」。これを実行するには、広がりや正当性、公共性が必要です。心の成長も見られる中で、「言葉の力」も大切です。書文協がこれらに携われる団体でありたい、と念じます。

中野に来て5年。次の5年も、たくさんの人の力に支えていただき、たくさんの人に返せる書文協でありたいと思います。

やっとスタートラインだと感じる今日この頃。書文協本部近くのサクラが芽吹き始めました。中野で見る6度目の花です。

出版のお知らせ

お待たせしました！幼児文字教材の決定版！

新・硬筆検定用テキスト

幼児編上「はじめてのえんぴつれんしゅうちょう」3月25日渡し

幼児編下「えんぴつひらがなれんしゅうちょう」5月1日発行

(共にB5判144頁、本体600円 消費税込み680円)

長くお待たせしました。教室には大変ご迷惑をかけることをお許してください。

- (下) の刊行時期はさらに早める予定です。ご予約をお伝えください。
 - 本シリーズ(右ページ参照)5巻は5月1日、6巻は6月1日刊行予定です。それまでは書文協で継続教材をご用意します。
 - 4月から幼児(上)を使っていただけの教室、あるいは本シリーズ5、6巻を予約していただけた教室には割引を実施する予定です。
- 以上お気軽に本部までお電話ください。

- 7巻以降も毎月1巻ずつ発行。
27年度内に15巻全てを発行します。



(上)



(下)

幼児の興味・関心に応えるつくり

今、幼児期の文字教育に関心が高まっています。しかし、鉛筆などで書く硬筆の教材はあまりないのが実態です。新しく刊行する2冊は、幼稚園、保育園児の教材として使うのに最適です。書く姿勢から始まって、えんぴつの持ち方を徹底的に学びます。字を書く前に、ぐるぐる渦をまいたり、横線、縦線を引いたり練習があります。文字も、出来る限り具体的に、物や行いなどと連動するように言葉を選び、イラストレーターが楽しく分かりやすい絵を描いて幼児に見せます。また、検定と関係なくお使いいただいても、ことば教材として優れた作りになっています。

小学館「ドラえもんの学習シリーズ」 『きれいな字が書ける』（大平会長指導）

8月21日発売予定！！

硬筆文字指導の決定版として、書文協が小学館に協力して進めている「ドラえもんの学習シリーズ」の製作が順調に進められており、8月には全国の書店に並ぶ予定です。書文協では、発行を続ける新硬筆検定テキストと共に、稿筆教材の集大成とする計画です。

絶大な人気を誇るドラえもんが、書文協会長である大平恵理と一緒に子どもたちにきれいな字の書き方を指導します。「ドラえもんの学習シリーズ」は、人気絶頂の学習マンガシリーズです。わかりやすい書字・書写指導の決定版として期待が高まっています。

のび太をはじめ、しずかちゃんや、スネ夫、ジャイアンらおなじみのメンバーが登場し、子どもたちも書写に夢中になることでしょう。

書字・書写指導を学習マンガにするには大変な工夫が求められます。しかも、指導場面がきわめて少ない硬筆です。

そのため、指導役として、書写書道界の第一人者である大平会長に白羽の矢が立ちました。鉛筆の正しい持ち方、正しい姿勢、筆圧から、ひらがなの「とめ・はね・はらい」、漢字の「折れ・曲がり」など字の書き方に精通した大平会長の理論と技能が発揮されることでしょう。

「きれいな字を書く」ことが大切であるとの認識は高まっていますが、敬遠されがちです。その壁を破るパワーをドラえもんに期待しています。」

書写を正課とする学校教育との連携を強めている書文協としては、この学習マンガを十分に活用する方針です。

新硬筆検定テキスト15巻も続刊

書文協は、楷書と行書に分かれている硬筆検定を一本化した新硬筆検定を新設、そのためのテキスト（全15巻）も現在、4巻（標準4年生用）までを刊行、27年度内に全巻発行の予定です。各巻ともB5判64ページで本体600円＋消費税。各巻8課題ずつ収録しています。標準学年制をとっており1巻（小学1年生標準）となっていますが、大人でも1巻から始めることをお勧めします。問い合わせは書文協本部までお気軽にお寄せください。



年長園児に正課で毛筆指導 書文協協力

東京・府中 北山幼稚園

学校法人山縣学園・北山幼稚園（東京都府中市西原町3）が4月から、日本の伝統文化に触れてもらうため、年長児105人の正課授業に毛筆指導を取り入れることになりました。書文協はこれに賛同、講師を派遣し指導実施面で全面協力していくことで同園と提携しました。幼児は体験（遊び）を通して知識を広げていくという文部科学省幼稚園教育要領の精神を守りつつ、新時代の幼児の毛筆集団指導方法を研究開発指導していく方針です。

北山幼稚園は、イタリアの幼児教育哲学、モンテッソーリ教育を掲げています。同教育法は貧困家庭児、障害児を対象にイタリアの女医が提唱した教育として有名です。同園ホームページでは、このように書かれています。

モンテッソーリ教育法に基づき、幼児のありのままの姿を認め受け入れ、個々の発達段階に応じた適切な指導を通して、豊かな感性と確かな判断力を兼ね備えた、個性あふれる人格を育むような活動環境を提供する。

4月から池田圭子・教学参与を派遣

書文協としては戦後70年の今年、幼児に日本人の誇りとアイデンティティ（自己認識）をもってもらうため、この指導実践に賛同し、協力していく方針で、当協会の池田圭子・教学参与を同園正課の講師として派遣することとしました。

書写書道界では昨年9月、学校書写書道の充実改善を求める140万人の署名を下村博文文部科学大臣に提出しました。その中心的な改革要望が、現在小学3年生からとなっている毛筆使用を1年生から認めて欲しいというものです。その入り口として、水書き方法に関心が集まっていますが、書文協では、先生方の教科研究団体・全日本書写書道教育研究会〔井上輝夫会長〕の長野秀章理事長〔東京学芸大学教授、前文部科学省教育課程課教科調査官〕の助言を得つつ、北山幼稚園プロジェクトを進めていきます。

2月27日には山縣迪子園長、大平会長の間でカリキュラムの打ち合わせが行われました。限られた正課時間内に、いかに充実した一斉・個別指導が展開できるか、またより経費を安くする工夫なども課題としていく方針です。



教 学 半



書文協教学参与 池田 圭子

教学相長（ちょう）ずる、あるいは教学相半（なかば）する、と言われます。教えることは学ぶことに通じる、と言う意味です。人にもものを教えるとき、自分が良く分かっていないとうまく教えられません。また、教えていると、自分がどこを知らないか、理解していないか、よく分かってきます。つまり、教えることは学ぶこと、なのです。

池田圭子は教学全般で会長を補佐するほか、通信教育部門を担当。通信生から文部科学大臣賞獲得者を輩出、教え方の上手さに定評があります。（編集部）

良い字をたくさん見ましょう

検定や大会の練習をしていると、お手本と自分の文字、自分の文字とお手本といった目の動きだけになりやすく、視野が狭くなってしまいうことでしょうか。もちろん、お手本を見ていかにそこに近づけるかということは、文字の上達に欠かせないことです。ただ、それだけでよいのでしょうか。

私たちが書を始めたころ、先生は、「上手な人の隣に座って、良いところをどんどん盗みなさい」とおっしゃいました。盗むということは、上手な人の良いところを自分も真似をして書いてみなさいということです。

お教室に通っている方は、仲間の作品を見ることはすぐに出来ることです。通信教育の方は、自分以外の作品を見ることはなかなか難しいかと思います。大会の結果は、ホームページでどなたでもすぐに見ることができます。また、書き初めの時期や夏休みの時期は各地の区や市でも展覧会があります。是非そういった所にも足を運んでいろいろな文字を見てみましょう。自分と全く違うなとか、この作品のここだけはいいなとか、沢山のことを目で見て感じてみましょう。

比べるものがお手本だけでなく、すぐにその効果が現れるかは分かりませんが、視野が広がってこれからの文字学習に役立っていくことでしょうか。

第3回伝統文化大会表彰式

3月8日 東京・中野ゼロホールで開催へ

第3回全国書写書道伝統文化大会の表彰式は3月8日、東京・中野 ZERO ホール（区立もみじ山文化センター）で開催され、先立って4日から9日まで、同所で優秀作品展会も開かれます。大会には計12707点の年賀はがき、書き初めの作品が寄せられ中央審査委員会による厳正な審査の結果、133点の特別賞が選ばれました。

表彰式では受賞者を代表して、年賀はがきコンクールで中央審査委員会賞に輝いた岩手県立盛岡第一高等学校3年、井上 俊樹君が謝辞を述べます。井上君は盛岡市に隣接する滝沢市（2014年、滝沢村が市制施行）在住。小学1年のときから書写を始め、通信教育で鍛え上げました。井上君は4月から地元の岩手医科大学に進学しますが、事前に提出された彼の謝辞案文には、小・中・高11年間の思いと、書きも字文化へのこれからの夢が詰まっています。

受賞者代表・井上俊樹君の謝辞全文

（予定稿）

～「岩手復興に貢献する」書写11年の思いを込めて～

この度、受賞者を代表して謝辞を述べる機会を与えて頂いたこと、非常に嬉しく思います。大会に携わった全ての先生方に感謝申し上げます。

私は今まで書文協のコンクールに出品し続けてきましたが、高3で受験勉強に専念しなければと思い、昨年の夏の大会は断念せざるを得ませんでした。冬の大会も参加できるかは微妙なところではありましたが、早い段階で志望校に合格することができたので、高校生活最後の集大成として大会に参加しました。

思えば私は小1から11年以上書写を続けてきました。書写を始めたころは特に硬筆が下手で、くじけそうになりながらも何度も何度も練習したのを今で

も覚えています。そして書文協の大会と出会ったことで、闘争心に火がつきました。上位の方々のレベルの高さに驚きながらも、自分もいつかあの人を追い越してみたいと思いました。それからは一緒に書写を習っている母からもたくさんアド



第二回伝統文化大会の座談会に臨む井上君

バイスをもらいながら、小学校高学年の頃は100枚以上練習したと記憶しています。思い通りの字が書けず辛く感じることもありましたが、表彰式に参加したいという思いをモチベーションに変えて何とか頑張り抜くことができました。表彰式に行けば、東京に単身赴任している父に会えるという思いもありました。

私にとって、表彰式というのは一番の学びの場でした。展示されている方の作品を実際に見ることで、自分に足りないものを発見できる貴重な機会だと思えます。また私は個人参加ということもあり、席書披露の場を通して初めて知ったことがたくさんありました。特に美しい線質を出すために、席書きの参加

著らが使っている道具や書くスピード、強弱の入れ方に工夫をしていた点が



非常に参考になりました。表彰

式に参加して多くの方から刺激を受けたことが自分のレベルをさらに高めていく上での原動力となったと感じています。

中学・高校では練習時間が少なくなりましたが、小さい頃から文字の形やバランスのとり方、線の強弱などをたくさん練習してきたことがすごく大きな力になったと感じています。それに加えて、中学生からは時間が減る分、練習の質の高さが要求されてきます。書文協の通信添削で先生から添削していただいたのを参考に、一枚一枚丁寧に仕上げることを心がけました。自分の作品が上達していくのが目に見えて分かることが練習を続けてきてよかったと思える瞬間ではないかと思えます。

後輩の皆さんの中には書写をいつまで続けようかと考えている人も多いのではないのでしょうか。自分に一つでも得意なことがあるというのは大きな武器になると思います。特に文字を書く機会は実生活で多々存在します。例えば友達などから「これ書いて。」と頼まれて書いた字が褒められると、とても気分が良いものです。美しい文字には人を感動させる力があります。私は書写書道に

携わってきた著の一人として手書きで文字を書くことの大切さを自分なりに伝えていければと考えています。

私は4月から岩手医科大学医学部に進学します。書道とは違う道ではありませんが、先ほども申し上げた通り、実生活の場面で文字を書くという機会は多々存在します。書写は生涯学習とも言われているので、今までの練習を思い出しながら、より美しい文字を追い求めていきたいと考えています。また、これまで続けてきた書写書道を通して学んだ集中力と忍耐力を大いに生かしていきながら、岩手の復興を後押しできる医師を目指して一生懸命頑張っていきます。

最後になりましたが、漆削の指導をして頂いた佐藤貴子先生をはじめ、これまでたくさんの面でサポートして頂いた書文協の先生方には感謝の気持ちで一杯です。また、審査にあたられました先生方をはじめ、大会関係者の皆様にかきねて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

平成27年3月8日

岩手県立盛岡第一高等学校3年

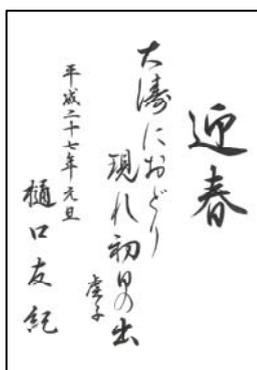
井上 俊樹

年賀はがき、書きぞめ優秀作品展

3/4－3/9 ZERO ホール

年賀状と書き初めは、代表的な伝統的文化です。展示会は一般社団法人日本書字文化協会（中野区中野2）が、公益財団法人文字・活字文化推進機構と共催で、文部科学省、小・中・高校長会、全書研の後援で開催した。

第3回全国書写書道伝統文化大会の文部科学大臣賞ほか優秀作品130点余を公開するものです。



年賀はがきコンクール
文部科学大臣賞

全国 12、700 余点から厳選 133 点

同大会には「全国年賀はがきコンクール」と「学生書き初め展覧会」があり、全国から12、707点の作品が寄せられました。これを書写書道教育の権威者で作る書文協中央審査委員会が厳正に審査した130点余で、幼児から大人までの硬筆、毛筆作品があります。

「飾る」書作品化推進

書の作品化の一助として、作品と賞状のレプリカを貼り、書き手の写真を貼った記念アルバムの製作を請け負っています。学びの足跡として、親しい人への贈り物としてご利用いただいています。また、教場単位の作品発表会にご利用いただける作品立ても展示しています。

アクセス

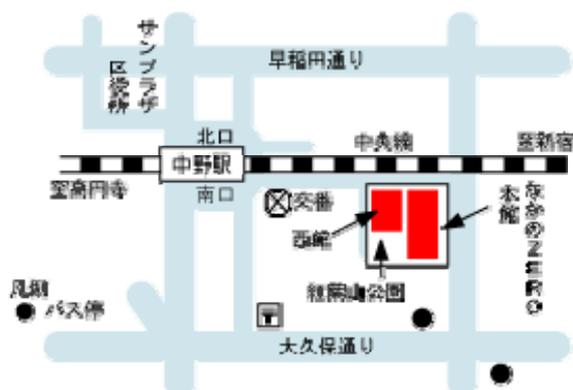
中野ゼロホール（東京都中野区中野2-9-7）

JR・地下鉄中野駅南口から線路沿いに新宿方向へ徒歩8分

途中、アスレチッククラブTAC西隣に書文協本部。



学生書き初め展覧会
文部科学大臣賞



きのう

今日

あす

書文協副会長 渡邊啓子

「歩」のころ

不思議なもので、言葉は育てれば育てるほど深みを増し、広がりを持ち、人を豊かにしてくれる。

反面、築き上げた信用までも一瞬にして崩すほどの力も持ち合わせている。その場その場で大切に使わなければ、様々なものを傷つけてしまい、言葉は消えることなく残ってしまう。

それに気付かされた時、後悔が胸の奥にひっそりと腰を下ろす。自分との葛藤が始まる。

それでも日々歩みは続く。

今までは、全力で走り、「明日死んでも後悔しない。」そう思って取り組んできた。

ところが、ある日「歩」と毛筆で書いたところ、人に「『歩』って、少し止まるって書くんですね。」と言われ、ハッとした。

確かに・・・

「歩」なのに少し止まるか・・・。

しゃにむにやって身体を壊した以前の反省から、最近は一歩ずつ、少しずつでも深呼吸しながら進もうと思っている。

とにかく前に前にと気持ちを動かすようにして鼓舞してきたが、時には少し立ち止まり、周りを見渡すことも必要なことかもしれないと思い返した一言だった。

書文協会員募集

書文協は平成 25 年 4 月、会員制度を新しくスタートさせました。会員の皆様のお力を得て、文字文化の継承、発展に力を尽くすことを会員制度の本旨としています。学校教育とも関係する団体として「書文協は流派を名乗らず」を不文律とし、文字を扱う者として、公共性の維持を組織存続の絶対条件としています。各社中に属しておられる皆様にも、書を語る横断的な団体として、是非とも書文協会員になっていただくようお願い申し上げます。

書文協会員には、普通会员、園・学校会員、個人会員、賛助会員、事業会員があります。園・学校会員は大会出品あるいは検定受検、教材購入等によって自動的に会員として認められ、事業会員は、個別契約によって認められ、書文協文字の使用許諾などが受けられます。

会員の特典として、団体などの書写書道活動について書文協の指導協力を優先的に受けることができます。また、講集会、講演会などの案内を受け、優先的に参加することができます。月刊書字文化が毎月郵送されます。また、書文協は「書文協ブランド」名の下に、諸教材・教具を賞品・記念品などの大手販売会社「吉見出版」（愛知県豊橋市）から売り出し、発送する業務携をしていますが、会員は同社の特価からさらに 10%引きの会員価格が適用されます。

会費は、28 年 3 月まで、会費を半減する経過措置を取っています。経過措置は今後の検討により継続されることがあります。現行会費と、それにもなう大会・検定の割引率は以下の通りです。会員でないときに大会出品・検定受検したときの割り引き率が上回る場合は、経過期間中、そちらが優先されますので、詳しくは書文協本部〔担当・佐藤〕にお問い合わせください。

	年会費	大会・検定割引率
普通会员 A コース	3,000 円	5%
B コース	6,000 円	10%
C コース	12,000 円	15%
個人会員	1,200 円	—

27 年度会員総会は 5 月 10 日

5/9 には記念講習会

東京代々木・オリンピックセンターで

書文協の平成 27 年度会員総会は、5 月 10 日〔日曜日〕午後 1 時から、国立オリンピック記念青少年総合センター（オリ・セン、東京都渋谷区代々木神園町 3-1）で開きます。議案は、平成 26 年度活動報告、検定改革など 27 年度活動方針、第二次 5 カ年計画（平成 27 - 31 年）、その他です。所要時間は約 2 時間。終了後、3 時からオリ・セン内で懇親会（会費 2000 円）を開きます。総会・懇親会・記念講習会のお申し込みは、当紙の末尾の申込み用紙をご利用ください。講習会は生徒のみでも参加できます。保育希望者、オリセン宿泊希望者にも対応しますが、ご希望に添えない場合もありますのでお問い合わせください。 会員総会記念として毎年開催してきました特別講集会は、硬筆書写課題検定〔新・新硬筆検定〕新設の解説を軸に、9 日及び 10 日午前に計 4 コマ〔1 コマ 90 分〕開きます。受講料は硬筆・毛筆ともに 1 コマ 1500 円、全コマ 5000 円。受講料と別に新硬筆検定テキスト 7 冊を特別に計 1,000 円で配布します。

9 日①10：30-12：00②13：00-14：30③15：00-16：30

10 日④10：30-12：00

東西南北

バンコック 下村かおり

「お稽古事は楽しくなくちゃ続かない！」

新東京国際空港から飛行機で南に6時間。常夏の国タイランドの首都、バンコクで教室を主宰しております、下村かおりと申します。

年間を通じて温暖な気候のタイですが、それでも一応、季節は3つあるのです。ホット・ホッター・ホッテストとも言われるようですが、正確には暑季・雨季・乾季です。

3・4月は年間を通じて一番暑い季節で、30分も散歩をすると実にめまいを起こす程です。また、4月にはタイ人にとっての最大のイベント、タイ正月の「ソンクラン」＝水掛祭りがあり、4月の13～15日までがタイ正月(地域で若干のずれもあり)で、タイ各地で水を掛け合うお祭りが行われます。

私は、こんな常夏の国で母が開校した下村書写教室の二代目として、バンコク日本人居住区内にある教室の一つで、子どもたちの指導に当たっております。

バンコクには、世界最大規模を誇る日本人小・中学校があり、約3000人の小・中学生の児童生徒が在学しています。当教室の教え子のほとんど、この日本人学校の児童生徒。いわゆる駐在員子弟です。

「お稽古事は楽しくなくちゃ続かない！」これが、私の指導理念です。しかし一方で、「できるようになるまで練習する」が下村教室の当たり前でもあります。どう導いていくかのカギが、教師との信頼関係だと考えています。下村書写教室では、「できるようになるまで繰り返し練習」が基本ですので、子どもたちにとって大変な練習方法だと思います。時として上手く書けずに悔しい思いをします。

泣くときもあります、ふて腐れることもあります。でも、そんな時に信頼できる先生の励ましがあったら、立ち直ってまた頑張れるのではないのでしょうか？ひとしきり泣いた後に落ち着いて話を聞けるのではないのでしょうか？

たった週1回の1時間半という短い時間ですが、大切なことは一人ひとりの子どもと短時間でも会話をもち、その子の気持ちを引き出す。それが信頼関係構築への一歩になります。

「下村先生って面白い先生」「この教室、楽しい」と思ってもらえるよう、日々奮闘中です。

海外生活では、日本では当たり前のことも当たり前ではない場合が少なくありません。(例えば、ケシゴムの消しカスを捨てる、机を拭く、椅子をしまう等)家庭ではメイドがやってしまう場合も多々ありますので、将来日本に帰国した際に困惑しない様、字の上達もさることながら、書写教育を通じて礼儀や言葉遣い、挨拶、片付け、当たり前のことを当たり前できるように。これが教室の指導方針です。

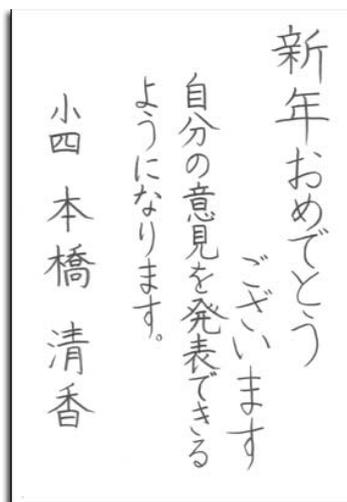
日本人としての礼儀をしっかり身につけた人になって欲しいと願うとともに、字を書く楽しさや上達する喜びを味わって欲しいと思います。

バンコクで頑張る子ども達の「がんばる心」を応援したいと思います。

書写書道 お正月作品 展示会

年賀はがき
書き初め
優秀作品
が
一堂に
。

年賀状と書き初めは、代表的な伝統的文化です。展示会は一般社団法人日本書字文化協会（中野区中野2）が、公益財団法人文字・活字文化推進機構と共催で、文部科学省、小・中・高校長会、全書研の後援で開催した第3回全国書写書道伝統文化大会の文部科学大臣賞ほか優秀作品130点余を公開するものです。



文部科学大臣賞受賞



文部科学大臣賞受賞

全国12000余点から
厳選130点

同大会には「全国年賀はがきコンクール」と「学生書き初め展覧会」があり、全国から12、707点の作品が寄せられました。

これを書写書道教育の権威者で作る書文協中央審査委員会が厳正に審査した130点余で、幼児から大人までの硬筆、毛筆作品があります。

「飾る」書作品化推進

書の作品化の一助として、作品と賞状のレプリカを貼り、書き手の写真を貼った記念アルバムの製作を請け負っています。学びの足跡として、親しい人への贈り物としてご利用いただいています。また、教場単位の作品発表会でもご利用いただける作品立ても展示しています。

春の体験教室受付中

えんぴつの持ち方、姿勢、基本からしっかりと学び、新学期準備をしましょう。

中野ZEROホール

2015 3/4-3/9 (入場無料)

主催：一般社団法人日本書字文化協会・公益財団法人文字・活字文化推進機構

お問い合わせ：日本書字文化協会 中野区中野2-13-26第一岡ビル3F

電話03-6304-8212

